

## 悩みの解消 ～ 正論より配慮 ～

2026 年 1 月 31 日、東京は快晴であった。【ひばりが丘駅 → 池袋駅】電車の中から『雪の積もる富士山』を眺めながら、大いに心が慰められた。池袋駅 → 新大久保駅に向かい 土建での『がん哲学外来』の個人面談を行なった。土建の健康増進課 保健師の吉羽綾香氏と大嶋真由美氏の心温まる おもてなしには、大いに感動した。

順天堂大学病院での『アスベスト・中皮腫外来』（2005 年）をきっかけに、『がん哲学外来』（2008 年）がスタートした。2009 年に土建でも『がん哲学外来』が開催された。2024 年 2 月 27 日には『がん哲学外来 in 土建』15 周年記念で、講演『正論より配慮 ～ 賢明な胆力 ～』を依頼されたものである。

2008 年 7 月 18 日 厚生労働省記者クラブでの『中皮腫の発症前診断に成功 ～ アスベスト暴露による中皮腫の早期発見に大きな前進 ～』の取材が、今回、鮮明に思い出された。【アスベスト暴露による中皮腫の発症は既に大きな社会問題となっていますが、——】と紹介された。【私たちの出会うことがらには、出来ることとできないことがあるが、出来ることは頼まれれば こばむものではない いやとは言わない】の学びとなった！

今回、家族のことで、来られた面談者に、【解決はなくても『困っている人と共に困る』ことが、悩みの解消となろう！これが、『犬のおまわりさん』の姿(画像)で、『あなたが 側にいてくれるだけで 私には どんなことでも 安らかに受け入れます。』へと導くであろう！】と語った。また、【『無邪気に、喜んで 小さなことに 大きな愛』を込めた『アルプスの少女ハイジ』(画像)の作家 ヨハンナ・シュピリ (1827-1901)が こよなく敬愛したゲーテ (1749-1832) の『涙とともに パンを食べた者でなければ 人生の味は分からない』の言葉は、『がん哲学外来』の心得でもある。】も さりげなく述べた。大変有意義な貴重な時となった

面談者は、『富士山』の 5 合目まで行かれたとのことであったので、【壮大な品格のある『富士山(3776m)』の姿には、いつも大いに心が慰められる。私の誕生の年(1954 年)の母の元旦の夢が『富士山』であり、私は、幼児の時から『富士山子』と母に励まされ『富士山』には特別な思いがある。】(画像)にも触れた。

がん哲学外来

メディカル・カフェ @よどばし ☕



困っている人と共に困る…  
わたしは犬のおまわりさんです。



2019.6.30

～5周年を感謝して～



1

赤ちゃんに向けた無邪気な愛を忘れない



OKIちゃん誕生！めでたし！

『種を蒔く人になりなさい』(いのちのことば社)より